

2021年度 認定NPO法人ブリッジフォースマイル 事業報告

1、総括

前年に続き、2021年度もコロナ禍における対応が求められました。子どもへの支援活動においては、公民館等で実施するセミナーや企業内で実施していたインターンのオンライン化が定着しました。これにより、遅れていた施設のネット環境も大きく改善され、職員

もパソコン操作に慣れてきたことで、ITを活用した新しい試みができるようになりました。企業と連携した支援においても、全国に呼び掛けられる支援が増えてきたことは、コロナ禍におけるDXのおかげと言えるかもしれません。

2、トピックス

■コロナ禍における支援

2020年度に開始した退所者に対する緊急支援は、引き続き家賃補助支援(最大2か月、1か月あたりの上限は5万円)を実施、76名に総額約540万円を給付しました。個別相談件数は、年間でのべ1000件ほど増加。就労に関する相談や金銭に関する相談をはじめ、精神的に落ち込んでしまうメンタルヘルスの相談も増加しました。

一方でコロナ禍も2年目に入ったことで、中高生に対する支援ではZOOMを活用したオンラインでのセミナー実施件数が増加。地域によってはパソコンの貸し出しやWi-Fiの設定を手伝うなど、施設のオンライン環境の整備を積極的に支援しました。オンラインでプログラムを実施できるようになったことで、引きこもり傾向だった児童がセミナーやインターンシップに参加できたり、東京のプログラムに九州から参加できたりするなどのメリットもありました。

■奨学金支援「カナエール」最後の奨学生卒業

「カナエール」は、B4Sが2011年から2017年まで行っていた奨学金プログラムです。児童養護施設などから進学を希望する子どもを対象とし、一時金30万円、卒業まで毎月3万円の給付型奨学金を支給。奨学金給付の条件は「スピーチコンテストの舞台に立ち、自分の夢を語ること」。数百人の観客の前で夢を語るという大きなチャレンジが、自己肯定感、進学と夢への意欲を高める機会になると考えた支援でした。

2011年から開始したスピーチコンテストは、退所者への奨学金支援が公的なもの民間のもの共に充実してくる中でB4Sの役割は終えたと判断し、2017年7月

の開催を最後に奨学生の募集も終了しました。

カナエールは卒業まで奨学生を見守るため、スピーチ作りを手伝ったエンパワたちとの面談は続いていました。2022年3月、最後の奨学生(東京1名、福岡1名)が無事卒業しました。

7年間で124人の奨学生を迎え、奨学生を支えたエンパワは約350人、スピーチコンテスト来場者数は延べ約5,000人でした。支えていただいた多くの皆様に、改めて感謝申し上げます。

■企業と連携する奨学金支援

企業と連携して奨学金支援を実施しています。いずれも、社会的養護経験がある学生を対象とした返済不要の給付型奨学金です。

2022年開始のピクテ投信投資顧問株式会社による「グローバル・タレント・プログラム」は、将来英語を使った仕事を希望している学生が対象で、受給期間中はTOEIC受検やピクテ投信主催のセミナーへの参加を条件に、一人当たり50万円の奨学金を給付します。

2021年度第3期の募集となる「東京スター銀行奨学金」は金銭教育プログラム(金トレ)へ大きくリニューアルしました。奨学金は、一人当たり30万円を30名の学生に給付とし、給付の条件として家計簿で収支を記録して、毎月社会人ボランティアのメンターと振り返り面談をします。1年後には自分でお金を管理できるようになることを目指します。

日本オラクル株式会社は、ITに関わる就労を目指す学生に向けた奨学金支援を行っています。社員の仕事を同行して学ぶ「ジョブシャドウ」を行うことで、仕事への理解と意欲を高めます。